

令和 7 年 10 月 10 日
都市局国際・デジタル政策課

2 地区の先進的なスマートシティプロジェクトの追加支援を決定 ～令和 7 年度スマートシティ実装化支援事業の選定～

スマートシティの全国での計画的な実装に向けた取組の一環として、令和 7 年度のスマートシティ実装化支援事業の二次公募の審査を行い、東京都江東区、静岡県沼津市に実証事業の支援を決定しました。

- 令和 7 年度スマートシティ実装化支援事業 二次公募選定地区 2 地区 ※¹
(うち、都市サービス実装タイプ※² 1 地区)

※¹ 支援地区の詳細については別紙をご参照ください。

※² 「都市サービス実装タイプ」とは実行計画に基づく先端技術等を活用した先進的な都市サービスについて早期に実証からまちへの実装までを一体的に実施する事業。

〔支援地区〕

- ・地域のにぎわいの創出・地域への愛着強化を実現するため、オープンスペースの利活用促進に向け、デジタル技術を活用した一連の仕組み（オープンスペース利用のマッチング、集客、来場支援、効果検証）の有効性と実現性の検証を実施。

【東京都 江東区】

- ・人口減少も見据えた“コンパクト＋ネットワーク”のまちづくりを推進し、車中心からヒト中心のウォーカブルな空間へと再編するため、また、ドライバー不足の解消、公共交通の利便性確保による回遊性向上のため、自動運転車両バスの実証にあたり、路車協調整備の在り方を検証し、整備そのものの必要性や整備時におけるリスク回避の成果について検証を実施。【静岡県 沼津市】

【問い合わせ先】

都市局 国際・デジタル政策課 野田、仙石、影野

電話：03-5253-8111（内線 32234、32236、32265）、03-5253-8422（直通）

mail：hqt-smartcity-mlit@gxb.mlit.go.jp

※メール送信の際は「*」を「@」に置き換えてください。

事業名:地域オープンスペース活用促進プラットフォームPJ

東京都江東区	豊洲地区
--------	------

■都市・まちづくり全体のビジョン

江東区は「持続的に発展する共生都市」を将来像に掲げ、にぎわいと成長が続き、区民が新たな価値を創出・発信できるまちを目指している。豊洲エリアでは、急速な開発により人口や来訪者が増加する中、「課題解決型・未来志向型」かつ「職・住・遊」が共存するスマートシティを都市ビジョンとし、QOL向上と地域連携によるまちづくりを推進している。今後は、ウェルビーイングの向上や公共空間の活用、地域資源の活かし方、経済機能の強化、共創型のエリアマネジメントなどを軸に、持続可能な都市運営を展開していく方針である。

■都市の課題とスマートシティ導入による解決方法

豊洲では地域のつながりが希薄で、東京全体でもシビックプライドが低く、未利用地や活用されていない空間が多く残されている。これに対し、オープンスペース活用から効果検証までを一貫して支援するデジタルサービスを導入し、オープンスペース利活用を促進することで、にぎわいの創出・地域への愛着強化を実現する。また、データドリブンによる施策運営を実現し、主催者・参加者双方のレポートにつなげる。



■導入するサービスの概要

キー コンセプト	豊洲エリアにおけるオープンスペースの利活用を促進する。
-------------	-----------------------------

豊洲エリアの公開空地や広場を地域資源と捉え、デジタルプラットフォームで一元管理・運用することで利活用を促進し、空間の有効活用と地域交流の創出を図る。イベントの集客・運営・効果測定にもデジタルサービスを活用し、効率化と効果検証を可能にする。

■導入するサービスのデザイン



■事業実施体制

豊洲スマートシティ連絡会
江東区
東京都
(一社) 一般社団法人豊洲スマートシティ推進協議会
清水建設(株)
(株) IHI
(株) NTTデータ

■費用負担の考え方

豊洲スマートシティ連絡会メンバーの豊洲スマートシティ推進協議会、清水建設、NTTデータが負担、実装後の運営費は豊洲スマートシティ推進協議会が負担し、サービス提供イベントの増加施策により採算性を高めていく。

■想定する利用者とそのニーズ

想定利用者は、イベントを主催するエリア内外の事業者（豊洲商友会協同組合、広告代理店、イベント会社、他地域の自治体等）および、イベントに参加する豊洲のワーカー・住民・来街者である。これらの層は、地域活性化や情報発信を目的としたイベントの開催・参加に関心を持つことから、利用者像として妥当である。主催者側には、場所選定から予約、運営、効果分析までを一貫して行える利便性と、集客支援・データ取得といったニーズがあり、参加者側には多様なイベント情報へのアクセスが求められている。

■本格導入後の効果検証

実証実験は2025年10月～2026年3月に実施し、オープンスペース活用やイベント開催数、デジタルサービス導入数などをKPIとして定量的に検証する。2026年度以降は、KPIを拡大しながら継続的な効果測定を行い、アイデア創出や参加者満足度向上、年間イベント数の増加を目指す。

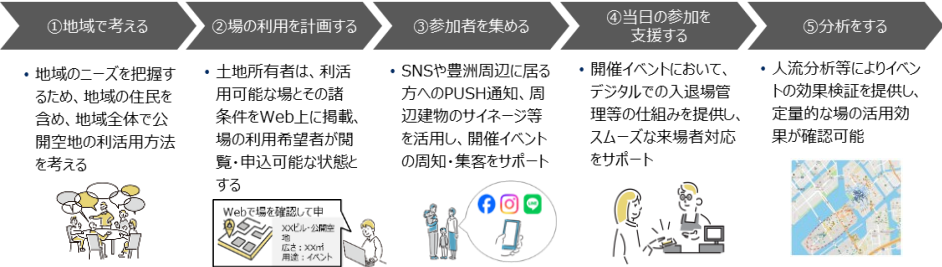
【東京都江東区】提案事業概要 [R7年度実証の内容]

事業名:地域オープンスペース活用促進プラットフォームPJ

東京都江東区	豊洲地区
--------	------

■実証の概要

実証したい事項	・ オープンスペースの利活用を通じた地域活性化の実現に向け、デジタル技術を活用した一連の仕組み（オープンスペース利用のマッチング、集客、来場支援、効果検証）の有効性と実現性を実証する。これにより、今後の本格運用や他地域展開に向けた課題整理と、社会実装に向けた重要論点の抽出を行う。
実証方法	①地域で考える：地域のニーズを把握するため、地域の住民を含め、地域全体で公開空地の利活用方法を考える ②場の利用を計画する：土地所有者は、利活用可能な場とその諸条件をWeb上に掲載、場の利用希望者が閲覧・申込可能な状態とする ③参加者を集める：エリアのマップや、豊洲周辺に居る方へのPUSH通知、周辺建物のサイネージ等を活用し、開催イベントの周知・集客をサポート ④当日の参加を支援する：開催イベントにおいて、デジタルでの入退場管理・決済・クーポン配信等の仕組みを提供し、スムーズな来場者対応をサポート ⑤分析をする：人流分析等によりイベントの効果検証を提供し、定量的な場の活用効果を確認
実証後の検証・報告事項	・ 人流分析等によりイベントの効果検証を提供し、定量的な場の活用効果を検証。 ・ イベント開催側及び参加側双方へのアンケートにより、定性的な場の活用効果を検証。



■実証事業で取得・活用するデータ

データ	取得方法	取得・活用の概要	事業終了後の活用想定
人流データ	GPS/ビーコン	本事業で活用する豊洲ビューワ及びビーコンにより取得	実装されたサービスで恒常的に活用する
イベントに関する地域の満足度データ	アンケート	サービス実装後の参加側の満足度をアンケートにより取得	実装されたサービスで恒常的に活用する

■実証内容の必要性・妥当性

オープンスペースの利活用を通じた地域活性化の実現に向け、デジタル技術を活用した一連の仕組み（オープンスペース利用のマッチング、集客、来場支援、効果検証）の有効性と実現性を実証する。これにより、今後の本格運用や他地域展開に向けた課題整理と、社会実装に向けた重要論点の抽出を行うことが、本実証の意義である。

■R7年度実証事業のスケジュール

FY25	9月（事前準備）	10月	11月	12月	1月	2月	3月
マイルストーン		キックオフ（仮）					成果報告会
取組内容	①地域で考える		②場の利用を計画する		③分析をする		実施結果整理／ 成果報告
	ワークショップの開催準備		ワークショップ開催		結果整理		
	・ 目的、実施内容、開催場所・時間、参加者等について決定する。 ・ 開催場所の予約、調整等を行う。		・ 課題やニーズを可視化し、公開空地に対する潜在的な需要を把握する。		・ 参加者からの意見をとりまとめ、公開空地活用の方針を決定する。		
	意見募集						
	場所掲載者／内容の調整		場所利用者への有用性の検証		仕組みの構築		
	・ 土地所有者の課題・ニーズより、プラットフォーム必要機能を決定する。 ・ 掲載者候補者を取りまとめ、各候補者へ掲載依頼をする。		・ 土地所有者側の課題・ニーズより、プラットフォームへの必要機能を決定する。		・ 生成AI、外部データ連携等を活用し、公開空地活用プラットフォームを開発する。		
	④集客する		⑤当日の参加を支援する		⑥分析をする		・ 各タスクの成果を取りまとめ共有する。
	イベント開催調整		イベント開催		イベント結果分析		
	・ 運営体制の設計、事業者間の担当業務調整を行う。		・ エリアやPR、QRコード等活用、集客をサポートする。		・ デジタルサービスにより、スムーズな来場者対応をサポートする。		
					・ 人流分析等により、イベント効果を検証し、定量的な場の活用効果に関する結果を整理する。		

■本格導入までのスケジュールおよび中長期的な展望

	実証フェーズ(R7)	実装フェーズ(R8)	サービスの展開フェーズ(R9~)
地域資源活用	■ 場の管理・運用から集客・効果検証まで一連で実施するオペレーションを設計 ■ 場の利用料、サービス提供料等の収益源による、継続性のある事業モデルを構築 掲載場所 10か所 連携イベント 20件 パイロットイベント3件	■ 実運用開始（地域オープンスペース活用促進PFのアップデート・公開） ■ 掲載場所の拡大 ■ イベント実施数の拡大 掲載場所 15か所 連携イベント 40件 PFを通じたイベント3件	■ 掲載場所の継続拡大 ■ イベント実施数の継続拡大 掲載場所 20か所 連携イベント 50件 PFを通じたイベント5件
官民の事業連携	■ 取組を通じて、行政手続きでの課題等を抽出	■ オープンスペース以外の地域資源の活用に向け、江東区と連携して取り組む。（豊洲スマートシティ推進協議会は、民間企業・大学で構成し、連絡会を通じて東京都・江東区等とも連携。）	■ イベント等が行いやすい環境の実現へ協議内容に基づき、行政への使用許可等可能なものからデジタル化・自動化
横展開	■ 公開空地・広場等の活用促進モデルのナレッジを整備し、型化	■ 同様の課題を持つ他地域に、ナレッジを横展開 ■ 豊洲エリアから、江東区全域や臨海部等隣接するエリアへの横展開	

■R7年度実証に必要な経費

実証事業全体の経費は約3,307万円であり、すべて協議会および会員が負担。内訳は、プラットフォーム構築及び実証実験費用。

【静岡県沼津市】提案事業概要 [実現するサービス]

事業名：路車協調システム試行(自動運転バス実証運行事業)

静岡県沼津市

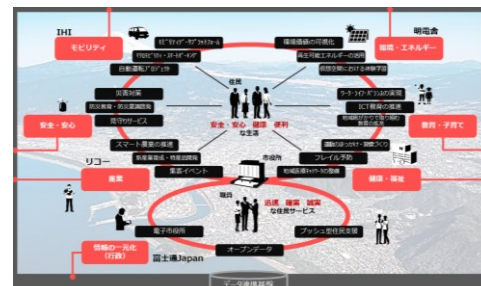
沼津市全域

■都市・まちづくり全体のビジョン

将来の都市基盤整備の礎を築いている整備されたまちの上で暮らす人々のQOL (Quality of Life) の向上を図る様々なサービスを展開するため、地域の特性や資源を踏まえながら、**まちづくりにICT等の先端技術を活用した「沼津市版スマートシティ」**として、人・まち・自然が調和し、「ちょっと未来」を感じ、「私らしい」を実現するまちを目指す。

■都市の課題とスマートシティ導入による解決方法

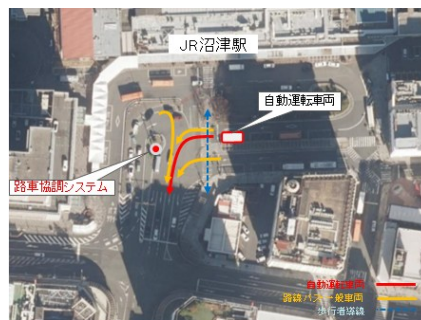
「沼津市版スマートシティ」の実現に向けた取り組みの一つとして、**人口減少も見据えた“コンパクト+ネットワーク”のまちづくりを推進し、中心市街地を車中心からヒト中心のウォカブルな空間へと再編していくこととしている。**そのためには、暮らしやすく訪れて楽しいまちなかを形成し、まちの活性化に繋げる必要があり、本取組により沼津駅ー沼津港間という中心市街地のメインストリートを**新たな交通手段として自動運転車両が走行**することで、**ドライバー不足の解消**にとどまらず、**公共交通の利便性が確保され回遊性の向上**が期待される。これにより、にぎわいが波及され、街全体のにぎわい創出、活性化につながる。



■導入するサービスの概要 ※今回応募事業に係るもの

キーコンセプト まちなかメインストリート（沼津駅ー沼津港）の自動運転

自動運転車両の死角を検知するための路側センサーを設置し、高度道路交通システム（ITS）によりネットワークをつなぎ手動介入や急制動の原因を取り除く。
自動運転車両ベンダーへの資料提供や運行内容を改善し、安全性や走行性（乗り心地）の向上を目指す。

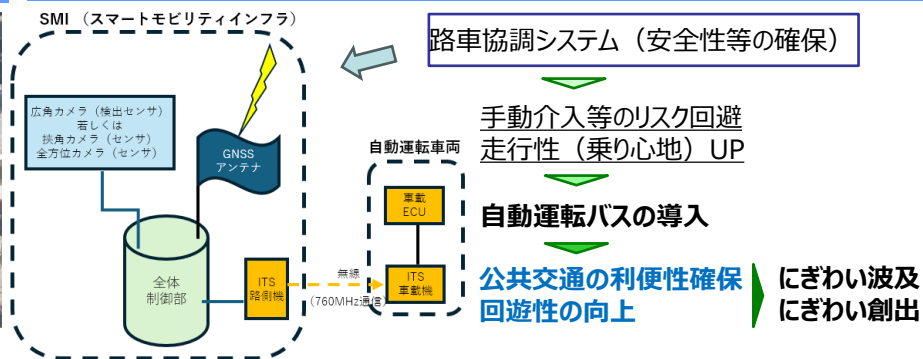


〈沼津駅南口バスロータリーの移動動線〉

■費用負担の考え方

実証に関する費用は市が負担、実装後の運行に係る費用は市と運行事業者で按分していく。自動運転バスの利用者数及び乗車率の向上による乗車運賃の増大のほか、広告企業の募集による収入、まちなかへのにぎわい波及を期待する企業からの協賛などにより採算性を高めていく。

■導入するサービスのデザイン



■事業実施体制

X-Tech NUMAZU協議会	
◎ 沼津市	(学) エグゼクティブアドバイザー 東京大学 先端科学技術研究センター 吉村特任准教授
○ モビリティ部会	(民) 株式会社IHI × (官) まちづくり政策課
	情報の一元化部会 富士通Japan(株) × ICT推進課
	健康・福祉部会 富士通Japan(株) × 福祉企画課
	環境・エネルギー部会 ㈱明電舎 × 環境政策課
	産業部会 ㈱リコー × 産業政策課
運行事業者	伊豆箱根バス株式会社
地域コミッティ	名古屋大学 (自動運転実証事業アドバイザー)

■想定する利用者とそのニーズ

沼津市随一の観光拠点である沼津港は、年間164万人もの人が訪れる。一方、自家用車での来訪が多く休祭日には周辺道路に渋滞が発生する。また、港のにぎわいをまちなかに波及できていないなど課題がある。沼津駅ー沼津港間に新たな交通モードである自動運転サービスを導入することにより、公共交通の利便性向上を確保し回遊性が向上することでまちなかへのにぎわい波及や渋滞の緩和を図るニーズがある。

■本格導入後の効果検証

観光交流客数：観光施設やイベントなどの利用状況を把握し、観光交流客数を集計

公共交通利用者数：各公共交通の事業者から利用者実績を徴収し、集計

まちなかへの来訪者数：中心市街地歩行者通行量調査に基づく計測

【静岡県沼津市】提案事業概要 [R7年度実証の内容]

事業名：路車協調システム試行（自動運転バス実証運行事業）

静岡県沼津市

沼津市全域

■実証の概要

実証したい事項	沼津駅ロータリー内バス停から発進する時に生じる一般車両等との衝突リスク回避により安全性で最適となる路車協調整備の在り方を検証し、整備そのものの 必要性や整備時におけるリスク回避の成果について実証 したい。
実証方法	既存の信号柱若しくはF柱の管理者との協議を実施し、設置機材や方法を検討後にセンサ・路側機・制御機などの路車協調システムを共架設置する。また、機器の選定にあたっては自動運転車両との相性および通信の安定性などが求められるため、ベンチャー事業者と十分な調整を行い自動運転車両と通信する。システムの連携時と車載カメラ単独の場合それぞれで運行を行う。
実証後の検証・報告事項	手動介入や急制動の回数を計測するとともに、発生した場合にケースについて確認し、効果の検証を行い、安全性や走行性（乗り心地）の向上を目指す。システム設置の必要性（車両技術の向上、走行時の減速等によりリスク回避の可能性が0ではないため）や設置効果について取りまとめ報告する。また、 実証により得られたデータは、他団体における自動運転バスの導入に際しても活用が図られるよう公開する。



〈歩行者空間を拡張した
（都）沼津駅沼津港線のイメージ図〉



〈沼津駅南口バスロータリーの移動動線〉

■実証事業で取得・活用するデータ

データ	取得方法	取得・活用の概要	事業終了後の活用想定
映像・画像 行動解析	路側センサー （カメラ）	本事業で導入するセンサー（カメラ）により取得	実装されたサービスで恒常的に活用する

■実証内容の必要性・妥当性

本事業区間のターミナルとなる沼津駅は多方面（9方向）の乗り場があり、利用者への分かりやすい案内とするため、乗り場の整理やデジタルサイネージの設置など整備を進めてきた。また、**過去の実証運行では、複雑な形状を有する駅ロータリーでの発着は安全性の確保が困難な事から臨時のバス停からの発着を余儀なくされてきた。**



この課題を克服し、**自動運転の実用に向けた利便性を確保するには、既存バス停位置からの発車に向けた路車協調の導入検証が不可欠**である。本実証を通じて、走行性（乗り心地）、安心・安全性の向上に寄与する。

■R7年度実証事業のスケジュール

R7年度						
9	10	11	12	1	2	3
実証運行準備				実証運行・効果検証等 実施報告書作成		

■本格導入までのスケジュールおよび中長期的な展望

R7年度		R8年度		R9年度		中長期的な展望
4	10	4	10	4	10	
事前準備		協議		課題共有		実装協議
実証		実証		一部実装		
検証		検証		課題抽出		

■R7年度実証に必要な経費

システム機器費	716万円
機材構成・設置方法の検討	87万円
実証実験現場対応	340万円
進行・管理、データ整理	492万円
合 計	1,635万円

令和7年度 スマートシティ実装化支援事業 支援地区

R7年度支援地区・支援額		
【凡例】	戦略的 スマートシティ 実装タイプ	通常タイプ
①	宮城県 仙台市	3,900万円
②	東京都 千代田区	3,150万円
③	東京都 港区	2,800万円
④	愛知県 岡崎市	3,500万円
⑤	三重県 四日市市	3,150万円
⑥	大阪府 大阪市	2,600万円
⑦	東京都 墨田区	400万円
⑧	和歌山県 すさみ町	1,500万円
⑨	東京都 江東区	1,650万円
⑩	静岡県 沼津市	1,500万円

※⑨⑩は二次公募採択
※④⑥は追加配分を実施

